

一の深さを誇る田沢湖、乳頭温泉郷や玉川温泉に代表される豊かな温泉に加え、春は角館（かくののだて）の枝垂れ桜、夏は大曲の花火大会、秋田の竿燈（かんとう）祭り、秋の紅葉、冬のかまくらと雄大な自然と人が作り出す文化が上手く融合している土地柄であると言えます。

さらに忘れてはならない食文化は比内地鶏とそのスープで煮るきりたんぼ、ハタハタ（漢字では鱒：魚へんに神です）、じゅんさい、稲庭うどん、横手やきそば、芭蕉も詠んだ象潟（きさかた）の岩牡蠣、そして素晴らしい日本酒（県民が飲む量も全国屈指）がありますが、こちらは個別にお問い合わせいただくこととします。

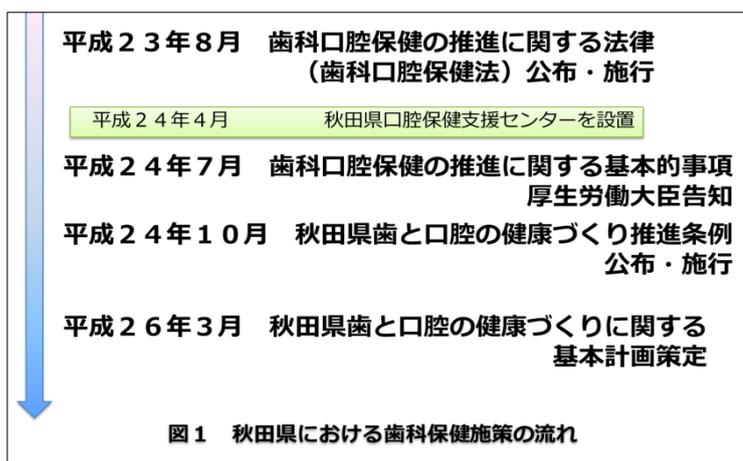
一方、行政区画上の秋田県は25市町村（13市9町3村）からなります。県庁所在地である秋田市は保健所設置市であり、それ以外の24市町村は8つの県型保健所が所管しています。人口は1,020,499人（平成28年1月1日現在）ですが、平成25年の総務省人口推計によりますと、秋田県の高齢化率は31.6%で全国で最も高齢化が進んでいます。

3. 秋田県における歯科保健施策について

フッ化物洗口に言及する前に本県の歯科保健施策を概説しておきます。

平成23年8月に「歯科口腔保健の推進に関する法律」が公布・施行され、翌平成24年7月には「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」が大臣告示として公表されました。

この流れを受けて、本県においても平成24年10月に「秋田県歯と口腔の健康づくり推進条例」（以下、「条例」という）が公布・施行され、平成26年3月には「秋田県歯と口腔の健康づくりに関する基本計画」（以下、「基本計画」という）が策定されました（図1）。「基本計画」の基本方針として「乳幼児期・学齢期」「成人期」「高齢期」「障害者・介護者等」の4つのライフステージ等に分けて、歯と口腔の健康づくりに関する課題等をそれぞれ抽出しています。また、「条例」の第11条には「知事は、毎年度、基本計画に基づく施策の実施の状況を議会に報告するものとする」との規定があり、先の6月議会で2度目の報告書を提出したところです。



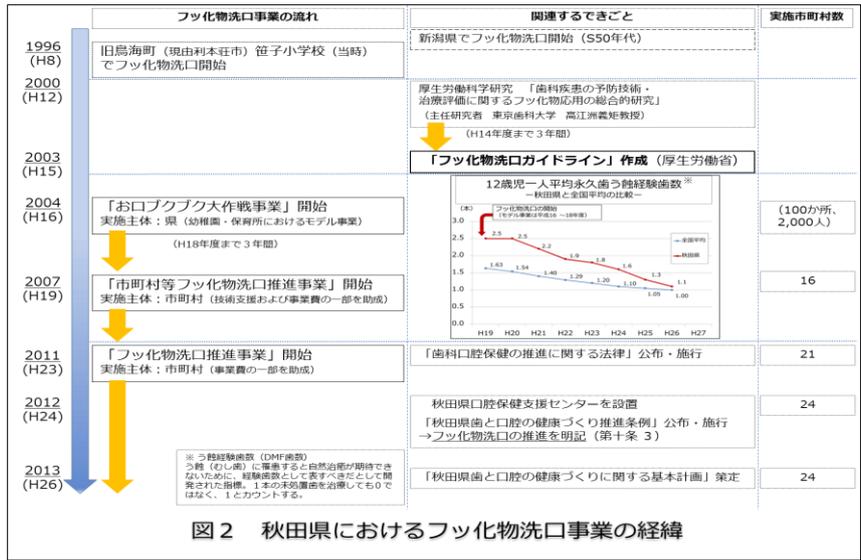
4. 秋田県におけるフッ化物洗口事業とその効果

① 経緯（図2）

秋田県におけるフッ化物洗口の歴史は比較的早く、平成8年に鳥海町（現由利本荘市）の笹子（じねご）小学校で先駆的な取組として始まりました。その後、本県の歯科保健の実態が、すべてのライフステージ等において、全国平均より低い状況にあり、なかでも12歳児の1人平均むし歯本数が全国最下位クラスとなっていること等の理由から、緊急かつ継続的に取り組む課題として平成16年度から18年度にかけて県が実施主体のモデル事業として「おロブクブク大作戦事業」が実施されました。これは幼稚園・保育園の年長児を対象に約100施設、2,000名の規模（平成18年度）でフッ化物洗口を行うというものです。また、並行して保健所に非常勤の歯科衛生士4名を配置してフッ化物洗口の実施指導等を行いました。（「おロブクブク大作戦事業」の実施にあたっては県健康対策課（当時）職員で歯科医師の臼井和弘先生が尽力されましたが、平成17年12月に発生したJR羽越本線脱線事故の犠牲となりました。翌朝新潟県で開催されるフッ化物洗口関連の会議に出席するための移動中の事故です。なお、臼井先生の功績を称えるとともに、その遺

志を継承し、他の模範となる歯科保健活動を実施している団体や施設、学校等を毎年秋に開催される秋田県歯科保健大会において「臼井記念歯科保健功労賞」として表彰しています。）

平成 19 年度からは実施主体が市町村となり、県は「市町村等フッ化物洗口推進事業」（平成 23 年度以降は「フッ化物洗口推進事業」）として市町村に対して器具や薬剤等に係る財政支援を行うとともに、現在も平成 24 年 4 月に県庁健康推進課内に設置した「秋田県口腔保健支援センター」の歯科衛生士 1 名と 3 か所の県型保健所に配置された 3 名の歯科衛生士の合計 4 名の歯科衛生士が一般的な歯科保健指導に加えて、フッ化物洗口に係る技術支援を継続して行っています(財政支援は平成 27 年度で終了)。



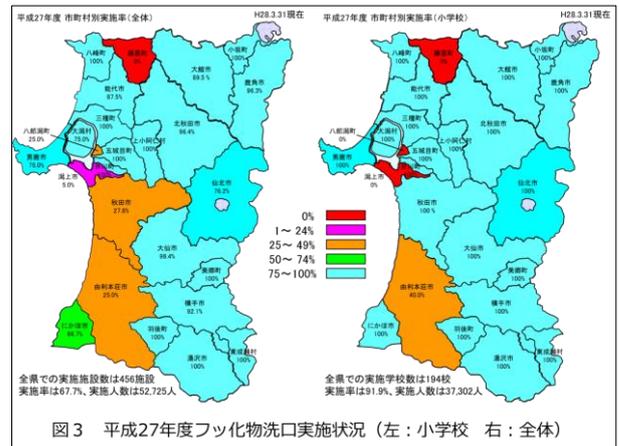
② 現在の状況

先に述べたように歯科口腔保健に関する法令が整備されてきましたので、これらとフッ化物洗口の関連を述べておきます。「条例」の第 10 条（基本的施策の実施）には「幼児、児童及び生徒によるフッ化物洗口の推進に関すること」との規定があります。また、「基本計画」には全部で 10 の具体的指標を定めていますが、このうち乳幼児期・学齢期の指標には「3 歳児におけるう蝕のない者の割合」、「12 歳児における 1 人平均う蝕数」に加え、「フッ化物洗口を実施している施設等の割合」が盛り込まれており（表 1）、県歯科医師会の協力をいただきながら、集団応用によるフッ化物洗口のさらなる普及を図っているところです。

表 1 「基本計画」における具体的指標（乳幼児期・学齢期）

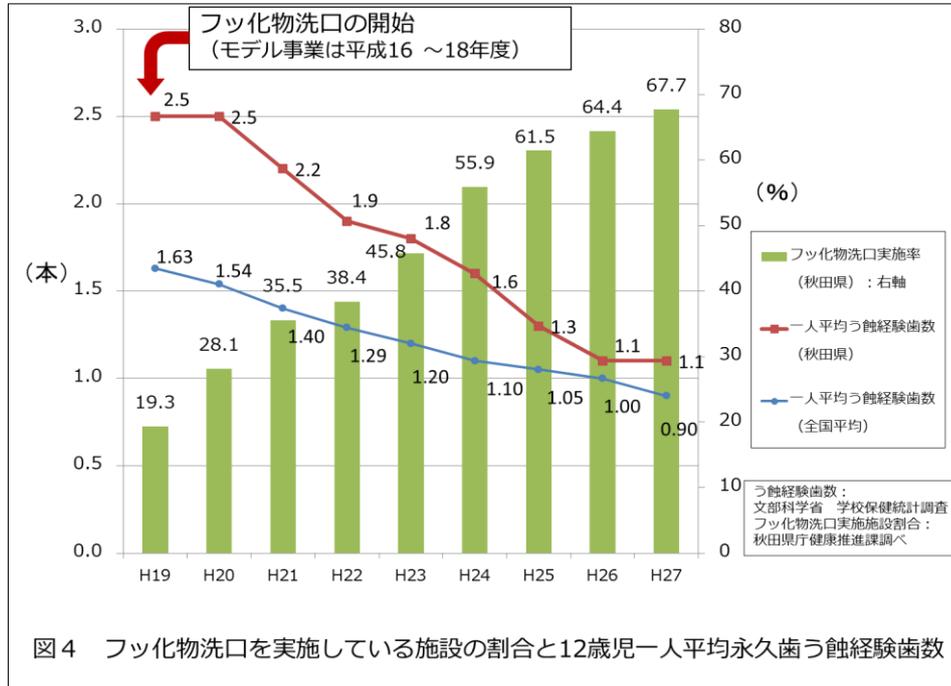
具体的指標	基準値	目標値
3 歳児におけるう蝕のない者の割合	H22年度 67.7%	H34年度 90.0%
1 2 歳児における 1 人平均う蝕数	H23年度 1.8本	H34年度 1.0本
フッ化物洗口を実施している施設等の割合	H23年度 49.9%	H34年度 73.0%

平成 27 年度フッ化物洗口実施状況の調査結果（施設ベース）を図 3 に示します。全体（幼稚園・保育園・認定こども園等、小学校、中学校、特別支援学校）では 67.7%（456 施設で 52,725 名が参加）、小学校に限ると 91.9%（194 校で 37,302 名が参加）と普及が進んでいます。県内において市町村事業としてフッ化物洗口を実施していないのは 2 市町となりました。



③ フッ化物洗口の効果

「基本計画」の具体的指標である「フッ化物洗口を実施している施設等の割合」と「12歳児における1人平均う蝕数（う蝕経験歯数）」を合わせて示したのが図4です。市町村事業としてフッ化物洗口を開始した平成19年度からの値を示していますが、フッ化物洗口の実施率の上昇に伴い、う蝕経験歯数は全国平均の減少よりも大きな傾きで減少しています。



5. おわりに

「小児歯科専門医である自分が日本で最も高齢化の進んだ秋田県で何ができるのか」と不安に思いながらやってきましたが、多種に渡る業務の中でも少なくない時間をフッ化物洗口に費やし、結果として子どもたちの歯の健康づくりに携わることができているとすれば大変ありがたいことだと思っています。今後、フッ化物洗口に関しては自治体間での実施の有無による健康格差の解消や未実施のカテゴリ（幼稚園・保育所や中学校）での実施に向けて意欲的に取り組みたいと考えています。

最後に本稿執筆にあたり、これまでの取組を顧みる貴重な機会を与えてくださった行歯会理事・編集担当の方々に厚くお礼申し上げます。

ご質問・ご意見等ありましたら下記電話番号・メールアドレスにご連絡ください。

電話：018-860-1426

Email：kobata-mitsuhiko@pref.akita.lg.jp

(参考資料)

○秋田県歯と口腔の健康づくりに関する基本計画

http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1137221060873/files/akita_hatokouku_keikaku.pdf

○平成27年度歯科保健対策報告書

http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1137221060873/files/H27_dental_report.pdf

○フッ化物洗口実施状況<平成27年度>

<http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1137221060873/files/H27ERofFMW.pdf>

3 ウォーターフロリデーションファンド総会記念シンポジウム ～水道水フロリデーション Both Win in Dentistry～に参加して

岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課

主任技師 安井 真奈美 (歯科衛生士)



1 はじめに

岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課で主任技師をしております安井と申します。

行歯会の皆様には、いつも貴重な情報をいただき本当に感謝いたします。また、この度はじめて記載させていただくことに緊張をしておりますが、皆様に日頃頂いている情報の恩返しが少ないでもできたらと思います。

平成28年5月15日(日)朝日大学で開催された「ウォーターフロリデーションファンド総会記念シンポジウム(大会長:朝日大学教授 磯崎篤則先生)」に参加しましたので概要を報告いたします。

2 認定NPO法人ウォーターフロリデーションファンドについて (HP 参照)

- ① 歯科医療格差を解消するために水道水を利用したむし歯予防方法“ウォーターフロリデーション”を実施しようとする“地域”を応援する全国組織の団体です。
- ② 「自分の地域ではウォーターフロリデーションの実施は難しい」と感じている方でも、気軽に「ウォーターフロリデーションに前向きな他の地域や歯科医師会」を応援することができ、社会貢献をする一員となれるような仕組みを持つ団体です。
- ③ ウォーターフロリデーションの普及活動への個人個人の温度差があろうとも、それを集約することにより自分一人の力よりもはるかに実現力のある力にすることができる団体です。
- ④ 自分の地域でもウォーターフロリデーションの実施を考えてみたいという会員には、適切な情報の提供と、人的金銭的支援を行う団体です。
- ⑤ ウォーターフロリデーションの実施のために、ボランティア活動を進めていくと共に知り合いや親戚の方にウォーターフロリデーションの良さを伝え会員になって頂くという末広がりな啓発活動を進めていく団体です。

3 講演内容について

- ① Both win の原点: ダグラス先生からの報告

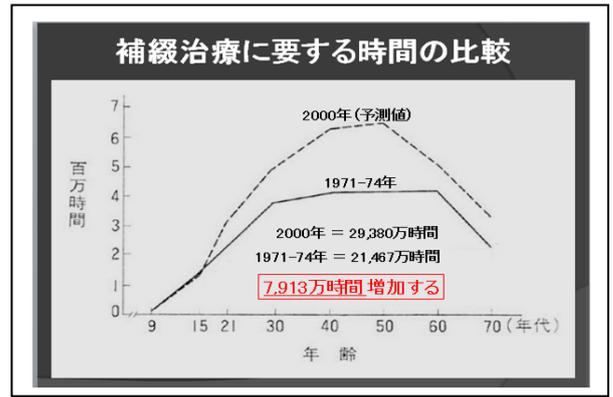
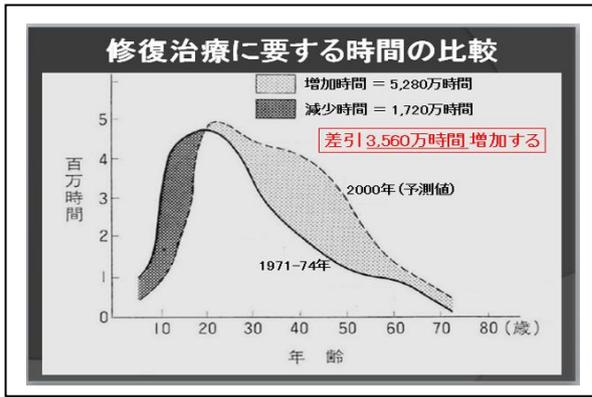
(朝日大学歯学部口腔感染医療学講座社会口腔保健学分野 井貝 亮太 先生)

Chester Williann Douglass Ph.D., D.D.S
ハーバード歯科医学校 教授が、1990年に、
2000年の歯科医療のニーズを予測しました。

	1980年	2000年 (予測値)	増加率
人口	226,545,805	265,000,000	17%
歯科医師数	121,200	156,300	29%
現在歯数	2,800,000,000	4,400,000,000	57%
人口10万人あたりの 歯科医師数	53.5	↑ 59.0	10%
現在歯100万本あたりの 歯科医師数	43.4	↓ 35.5	-22%

歯科医師1人あたりが管理しなければならない歯数が増加する

【結果】
2000年の米国の歯科医師の実数
「人口10万人あたり163人」
(日本は2010年で10万人あたり79人)
米国は日本の2倍の歯科医師が存在する。



＜国民1人あたりのGNP、医師・歯科医師の粗収入の比較＞

	1965年	1985年	増加率
国民1人あたりのGNP	\$ 3,780	\$ 5,255	39%
医師の粗収入	\$ 31,156	\$ 48,592	56%
歯科医師の粗収入	\$ 30,865	\$ 66,787	116%

日本の政策「健康日本21」が参考にしたアメリカの「Healthy People2020」の口腔保健の介入目標は『水道水フッロリデーションの恩恵を受ける人口を、2008年の72.4%から2020年には79.6%にまで増加させる』としています。

また「Healthy People2020」の中において、“過去50年のアメリカ人の口腔の健康の大幅な改善は、公共水道システムを通して水を得る10人のうち約7人に利益をもたらす水道水フッロリデーションである”とされています。

さらには、アメリカのベストジョブ100(2016)では、3位がコンピューターシステムアナリスト(平均年収82,710ドル)、2位が歯科医(平均年収149,540ドル)、1位が矯正歯科医(平均年収187,199ドル)でありました。

このことから、アメリカでは、水道水フッロリデーションの普及によりう蝕が減ったことで、歯科医師が困るという事例はなく、むしろ、より一層の普及を推進しています。

② 水道水フッロリデーション実施が Both win に貢献するエビデンス

(福岡歯科大学口腔保健学講座 晴佐久 悟 先生)

～オーストラリアにおける調査～

- ・対象者
 - 1960年生まれ (2,270人)
 - 1960～90年生まれ (1,509人)
- ・基本情報
 - オーラルヘルス全国調査 (2004年～2006年)
 - 水道水フッロリデーション状況

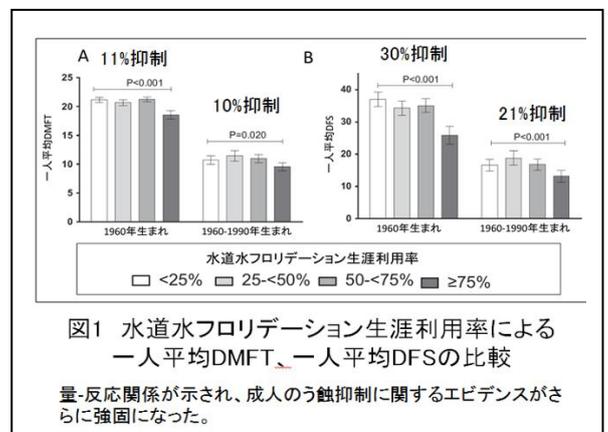


図1 水道水フッロリデーション生涯利用率による一人平均DMFT、一人平均DFSの比較

量-反応関係が示され、成人のう蝕抑制に関するエビデンスがさらに強固になった。

～アメリカにおける調査～

- ・対象者は、1950～69年生まれ (92,701人) で、水道水フッロリデーションを「現在実施」「20年前実施」「生誕時実施」の3分類に分けて調査を実施したところ、生誕時に水道水フッロリデーション実施地区に居住していた人は、まったく居住していない地区と比べ、歯の喪失

が1人あたり平均0.26本少ない結果が得られました。

～アイルランドにおける調査～

- ・水道水フロリデーション実施地区、未実施地区の平均残存歯数、21歯以上の保有者率、無歯顎者率比較

年齢	水道水フロリデーション実施地区				水道水フロリデーション未実施地区			
	人数	残存歯数	21歯以上の保有者率(%)	無歯顎者率(%)	人数	残存歯数	21歯以上の保有者率(%)	無歯顎者率(%)
16-24歳	227	27.1	98.7	0.0	101	27.2	98.0	0.0
25-34歳	139	26.1	95.0	0.0	90	22.9	77.2	3.3
35-34歳	164	22.5	71.3	2.4	98	19.0	53.1	6.1
45-34歳	111	16.4	39.6	10.8	88	10.7	22.7	29.5
55-34歳	88	11.6	29.4	33.8	70	6.8	8.6	47.1
65歳以上	78	9.2	16.4	42.3	107	5.9	7.5	54.2

対象者を無作為に抽出しているものの、交絡因子を調整していない。

このことから、水道水フロリデーションの実施により“歯の寿命が延びる”⇒現在歯の維持が医療費の抑制や歯科受診率の向上に繋がり、Both Winとして、特に高齢者歯科医療需要の増大に繋がると結論されました。

その他に、東北大学大学院歯学部研究科国際歯科保健学分野の相田先生（歯科疾患、受診行動、歯科医療費の変化をデータに基づき考察する）、日本大学松戸歯学部公衆予防歯科学講座の田口先生（Health for all；現在歯数と医療費の関連からの考察）、長崎大学大学院医歯薬総合研究科口腔保健学分野の小山先生（高齢者歯科保健・医療の現状と水道水フロリデーションの必要性）、兵庫県歯科医師会医療管理委員会前委員長の近藤先生（開業医が水道水フロリデーションを推進する本当の理由）等、多数の先生方から、水道水フロリデーションの必要性や現状の課題等、貴重なご講演をいただきました。

4 おわりに

岐阜県では、平成14年度からフッ化物応用推進に向けた事業を展開しており、岐阜県歯科医師会と連携し、フッ化物洗口を新たに導入する学校等にフッ化物製剤を無償で提供するほか、学校関係者等を対象にした研修会を地域ごとに開催し、フッ化物洗口が安全かつ効果的に実施されるよう支援を行ってきました。こうした取り組みにより、フッ化物洗口を実施する市町村は着実に増え、その結果、平成25年度には、12歳児のDMFT指数が新潟県と並び「0.6」と全国1位となりました。現在は、現状の維持・向上のため岐阜県口腔保健支援センター員として、自ら教育委員会や歯科医師会に出向き、フッ化物洗口の効果や実施方法等を説明するなど働きかけを行っております。

今回のシンポジウムに参加させていただき、水道水フロリデーションは国民一人一人に格差なく口腔の健康を提供できる効果的な手段であることを更に理解することができました。ただ、安全性の理解や歯科医療関係者自身の“フッ化物洗口を行うことで歯科医の収入が減る？”と言った誤解も打破していかなければなりません。しかし、とにかく私たちは「国民の健康増進に寄与する為に、口腔の健康を支える歯科医療従事者&スペシャリスト！」であることを忘れず、より効果的な方法を1番に考えて進めていかなければならないことを改めて感じる事ができました。



※ご質問等ございましたら承りますので、下記にご連絡をお願いいたします。
 岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課 在宅医療福祉係 安井 真奈美
 TEL : 058-272-8878 メール : yasui-manami@pref.gifu.lg.jp

4 先輩からのエール NO.3



佐賀県健康福祉部 副部長（兼）歯科医療総括監 歯科医師 岩瀬 達雄

働かないアリだって、やるときはやるのだ！

私は、年に1冊、大学ノートを使います。一応仕事のためですがルールはなく、気になったことをメモします。難しい漢字の読み、仲間の連絡先、電話した内容、読みたいと思った本、ぐつときたレシピ、気に入った音楽、パソコンの技・・・などなど。

さて、この3年間のノートから、アリ？と思うフレーズを並べてみました。
みなさんも、たまにはアリになりましょう・・・新しいヒントがあるかもしれません。

- 組織に重要なのは、組織の全員が同じことを知っていることではなく、「組織のだれが何を知っているか」をみんなが知っていること。（ダニエル・ウェグナー）
- 幸福な人とは、客観的な生き方をし、自由な愛情と広い興味をもっている人である。
- 「知性」とは、「知識」ではなく「知恵」。「知恵」とは、経験からしか学べない、言葉で表せないもの。「知識」とは、言葉で表せるもの。
「知識」は書物で学べるが、「知恵」は経験でしか学べない。
- 「業績は優秀だが、自分のビジョンに共鳴しない部下」より「業績はいまいちだが、自分のビジョンに共鳴している部下」（ジャック・ウエルチ）
- 近くを見るから船酔いするんですよ。100キロ先を見ていれば、景色は絶対にぶれない。ビジョンがあれば、少々の嵐にもへこたれません。（孫正義）
- 優れたビジョンとは・・・①簡潔 ②明快 ③ある程度抽象的であること ④チャレンジングなこと ⑤未来志向であること ⑥ぶれないこと
- 欧米には寝たきり老人がいない。イギリスでは、自分で食事できなくなった老人は診察しない。スウェーデン、デンマークも同じ。
- STAP 細胞の作製も、何億回失敗しても「ない」とは言えない。こういうのを、「悪魔の証明」といい、現実的にはほぼ不可能な証明なのである。「反証不可能」な問題は、すでに科学ではない。
- FESTINA LENTE 「悠々として急げ」
- ヒトは血管とともに老いる。（ウイリアム・オスラー）
- 愚かな国民の愚かな期待にまで応えようとする国家。本当の悪魔とは、巨大に膨れ上がった愚かな民意、それを作り出しあおるのがメディアです。
- パラダイムシフトとは、自分が気づかぬうちに身につけてしまい、かつ、役に立っていない認識の仕方を特定し、役に立つ認識の仕方に変えること。価値観が変わると行動も変わる。
- 右脳と左脳でキャッチボール Y字型人材
- No pressure, No diamonds.
- プロとは、向上心をもつ、上昇志向ではない。向上心は自分の中で、上昇志向は他との比較。
- 算数は結果、数学はプロセス。算数は計算の正確さ、数学は論理の正しさ。
- 技術は常に雇用を破壊する、そして常に雇用を創出する。破壊>創出？
- カラーバス効果（Color Bath）・・・自分が意識していることほど、それに関係する情報が自分のところに舞い込んでくる。
- 好奇心こそがイノベーションを生む。

- 昨日はデータで分析できるが、明日はデータでは測れない。妄想・空想・想像！
- 量がそろると、それがプラットフォーム（環境）になる。量は質に転化する。
- Product placement ドラマの中の時計や車に興味をもつ。
- テクノロジーの在り方は、思考プロセスを変える。
タイプライターの発明が、ニーチェの文体を変えた。理由は、脳には可塑性があり、状況に合わせて機能を変化させていく（マーシャル・マクルーハン）
- ネット・バカ（ニコラス・カー）
情報を探る能力、マルチタスキングは得意だが、深く集中して考えたり、長文が理解できない、記憶力がない。知識量の増大と思考力の低下。
- 動物はしつける、植物は育てる
- 教育はまず型にはめる・・・個性が伸びる
- ツァイガルニク効果・・・うまくいったことより、うまくいかなかったことの方がよく覚えている、成功体験より失敗体験を記憶している
- リーダーは、正しいことをする人、マネジャーは、事を正しく行う人。
- 組織の失敗は、「手段の目的化」が9割
- 共通の敵をもつ相手は仲間だと感じる、共通の目的をもつ相手は仲間だと感じる。
- 幸せを数えたら、あなたはすぐ幸せになれる、幸せはなるものではなく気づくもの（ショーペン・ハウエル）
- 人間が不幸なのは、自分が幸福であること知らないからだ、ただそれだけの理由なのだ（ドストエフスキー）
- 急ぐ手紙はゆっくり書きます。（黒田官兵衛）
- 私は、蓄音機や活動写真器械で置き換えられるような講義は、本当の意味の教育的価値のないものだろうと思っている。（寺田 寅彦）
- 3S 薬を減らす・・・Simple, Short duration, Small dose
- スライドは目的をもって話す。
①1スライドには1トピック ②最後席から読める文字 ③定量的関係はグラフで、正確な数値は表に④タイトルはいいたいことを ⑤ノイズを入れない ⑥最初に目が行くところ 左上から右下へ

5 若手奮闘記 No. 11

福岡市保健福祉局健康医療部口腔保健支援センター
安永 愛

koku.PHWPB@city.fukuoka.lg.jp



【はじめに】

行歯会の皆さま、いつも大変お世話になっております。
福岡市保健福祉局健康医療部口腔保健支援センターの安永と申します。
行政の仕事に就き3年目に入りましたが、まだまだ分からない事が多く、職場の方々に助けていただきながら毎日を過ごしています。
政令市の若手歯科専門職として思う事を、読んでいただければ幸いです。

【自己紹介】

私は大学を卒業したのち、母校での臨床研修、大学院修了、医員等を経て、平成26年度に福岡市に入庁しました。

最初の職場は、保健福祉局健康医療部健康増進課歯科・栄養指導係でした。

今は、平成27年4月1日付で健康医療部内に口腔保健支援センターが設置され、口腔保健支援センター所属の歯科医師として勤務しております。

【福岡市について】

福岡市は7区からなり人口約150万人の政令市です。各区に保健所（保健福祉センター）があり、歯科医療機関は約1,000施設あります。現在の本市歯科専門職の配置は、本庁に常勤の歯科医師1名と、嘱託員の歯科衛生士1名の計2名となっています。

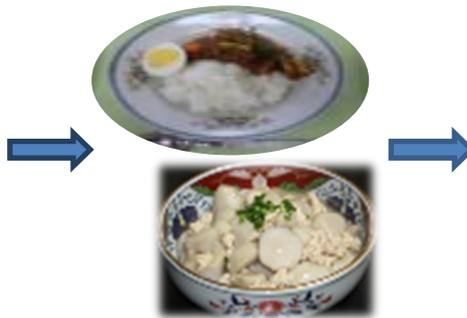
街としての魅力と、海山の地形に恵まれており、大陸の影響もあってか、すこし独特の気風や食の楽しみがあります。博多駅から福岡空港まで地下鉄で10分程度、街の中心から海までが近いなど、アクセスが便利な街なので、観光地としても恵まれています。

【業務内容】

現在の私の業務としては、本市の歯科口腔保健に関する取組みを把握し、外部委員から成る協議会を開催すること、照会の回答・報告の作成、各種歯科健診の委託業務や結果の取りまとめ、健診受診率向上に向けた取組み、関係団体との調整業務（歯科事業の実施に関することや、祝辞や後援依頼の対応等）を中心に、地域の方の身近なところでは、食生活改善推進員（ヘルスマイト）を対象とした「お口の健康サポーター養成教室」（取組み例参照）や、公民館などで講話を行っています。

「お口の健康サポーター養成教室」の取組み例

- ①サポーター養成教室の開催 ②口腔機能向上レシピ作成



- ③チラシの作成
④市民の方へ、ご紹介



サポーター養成教室で、お口の健康について学んでいただいたヘルスマイトさんに、口腔機能向上を目指したレシピをご提案いただくなど、市民の方への啓発に取り組んでいただいています。



口腔保健支援センターが設置された昨年度からは、障がい者入所施設を対象とした歯科口腔保健の向上を目指した取組みを開始したところです。

【かかえている課題】

歯科保健や公衆衛生について勉強不足だと、入庁後に痛感しました。

日常業務では、文書事務や会計事務、行政の仕事に必要な基本的なスキルを身につけること、新しい企画を立案すること、事業の評価まで含めた計画を立てて実行に移すこと等、簡単には出来るとは思っていないと痛感しています。

歯科医師会や大学をはじめ、多くの職種の方と関わる中で、市の職員として、いつも適切な対応が出来ているのか、自問自答の日々を送っています。

【今後について】

今の自分が出来そうなことを考えると、あまりに少なく不安に駆られますが、入庁して3年目、気付けばどんどん、一日の長さを短く感じています。

まずは、今の業務を誠実にやっていながら幅を広げていき、歯科口腔保健の向上につながるお手伝いができたらと思っています。

まずは、原因と結果、対象にあわせた適切な介入を具体的にイメージ出来るようになり、そして、行動に移せるようになりたいです。

【おわりに】

私は幸運なことに、入庁初年度に国立保健医療科学院の研修や夏ゼミに参加させていただきました。その際に、色々な自治体の行政歯科に関わる方々と直接お会いして、お話しをさせていただいた事、これらは本当に貴重な体験で、今の仕事をする上での“やる気”に繋がっています。

行歯会の皆さま方から、ご発信いただいています情報に、いつも助けていただいております。今後とも、御指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。



☆編集後記☆

梅雨あけが近づいており、夏が（夏休みが？）待ち遠しい今日この頃です。
半年間、編集をご担当いただいたTさん、本当にありがとうございました。（H）

今回号を最後に「行歯会だより」担当が終了いたします。
安藤先生・長会長・高澤副会長他、理事の皆さまのご支援のおかげを持ちまして、なんとか大役を果たすことができました。不慣れゆえ、迷惑を沢山おかけしたことと思います。
みなさま、ご支援・ご協力をありがとうございました。
後任の原田先生/吉野さま、どうぞよろしく願いいたします。（T）

【土佐弁】
ねえ
こんどから山口の姉らあが、担当にかーらん。みんなあ、よろしゅうにしちやってよ(^)/
< 次回から山口他女性の方々が担当になるようです。皆さま、よろしくしてあげてくださいね >

「歯っとサイト」 掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>

では、掲載コンテンツを募集しています。

- ・ Web 媒体（リンクをはる）場合は、下記 URL へ

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/youbou.html>

- ・ PDF 等のファイル媒体での提供も可能です。

希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛に御連絡ください。